

第2回 令和7年9月3日(水)開催

1. 計画に反映した意見

	主な意見	対応
1 全般	感染症のパンデミック下で災害が起きた場合の対応についても検討していただきたい。	感染症危機下における災害対応についても想定し、平時から県との連携体制の整備を進めるなど留意してまいります。

2. マニュアル作成等、今後の取組に反映させていただく意見

	主な意見
2 1.実施体制	平時から訓練することが大切。行政の立場でも訓練は必要だと思うが、我々市民自身が訓練する必要があると思う。ネット利用に慣れていない高齢者に普段から慣れてもらう必要がある。
3 2.情報提供・共有、リスクコミュニケーション	高齢者を含めて地域の方が、普段からどこからの情報をどのようなツールにより取得されているのかを準備期から把握し、啓発することで、市民の皆さんが信頼できる情報を得ることにつながるのではないかと。
4 2.情報提供・共有、リスクコミュニケーション	感染症対策への個人意識の徹底が大切だと言うことはわかるが、それができないから難しい。感染したときに自業自得だと感染者を責めるような、差別偏見が助長されるようなことになってはいけません。
5 2.情報提供・共有、リスクコミュニケーション	(感染後、出勤可能となるまでの期間など)その都度、最新の正しい情報が手に入れられるよう、アップデートできれば良い。
6 2.情報提供・共有、リスクコミュニケーション	まちづくり協議会では、地域の方々、特に高齢者など情報が届きにくい方に対してどのように発信していくかということが課題。新しい住宅・マンションが多く、まちづくり協議会に参加されていない団体もある。市の広報紙の配布などを含め、そういうところにどれだけ情報を提供できるか、市と連携してどれだけ情報ネットワークが構築できるかが課題になっているということをお知らせいただきたい。
7 4.ワクチン	医療従事者や高齢者施設の高齢者、従事者など、接種対象者がどれぐらいになるかという推計を一度しておかれた方がよい。また、住民接種のシミュレーションを机上でも構わないのでしておかれた方がよい。
8 4.ワクチン	ワクチンの項目の中で「各業務を外部に委託」とあるが、委託先の信頼性がとても大事だと思っている。実際、コロナの時も、ワクチン接種の現場で委託されてきた先生方と我々と考え方が異なるなど、難しい状況があったので、信頼できる委託先を平時から見つけておくのは大事だと思う。
9 6.物資	「物資および資材の備蓄」という部分で、どこからどういう物資を入れるのかであったり、自宅隔離になった市民の生活支援でも事業者への依頼をされると思うので、どこに事業者への依頼するのかなど、スムーズに動ける体制を事前に構築することが望ましい。
10 6.物資	感染症対策の備蓄、マスクや防護服などは、感染症まん延下でも物流は止まっていないので、通常の経済活動の中で実行可能だと思っている。ただし、コロナの状況でもあったように、買占めによる物資の不足に対してどういった物資の備蓄が必要かという観点は必要である。いわゆる自然災害に対応する備蓄と感染症で備えなければならない備蓄は、状況が違うので、考え方がこの2つでは違う。

3. その他

	主な意見	対応
11 6.物資	病院で個人防護服などを備蓄する場合、どれぐらいの備蓄量が必要なのか。クラスターを1回乗り越えるだけの備蓄なのか、1週間持てばいいのか、3日あればいいのか、その基準があるとよりわかりやすいものになるかと思う。	医療機関等における感染症対策物資等の備蓄等については、県の所管になります。いただいた御意見については県にお伝えさせていただきました。